

## たつの WORK TRIP



「たつのWORK TRIP」は、辰野町への企業誘致を目的にした共創型お試しワーケーションプログラム。行政がレンタカーやAirbnbリステイングでの宿泊費用などを対象に、1社あたり30万円を限度に支援し、実施した。結果、期間中に定期的に町を訪れた関係人口は100人以上。参加した4社はそれぞれ独自に地域とつながり、多彩かつユニークな共創プロジェクトの数々が現在進行中だ。

## わずか半年のワーケーションで 企業誘致を成功させた 町のポテンシャル



第一線で活躍する経営者やキュレーター、美術大学の教授など7名が審査員として招かれ、将来有望な現代アーティストを発掘する



株式会社ファーストアイデアジャパン

内山敏琪氏

香港出身でイギリス国籍を持ち、'94年に来日。空間クリエイティブを軸に、インバウンドに向けた情報発信やアート・コーディネート事業も手がける

**地域とアート  
双方が抱える課題に着目**

空間クリエイティブを軸に、アートのコーディネート事業も手がけるファーストアイデアジャパン。培ってきた経験と知識を地方創生に活かしたいと、21年より新たに活動し始めたなかで辰野町を知った。本ワーケーションでは「辰野アートプロジェクト」をコンセプトに掲げ、自社クリエイターたちがアート目線で町の生活や町民との交流を行うことで芸術を感じ、アートの町へ発展するヒントを見つけたという。

「過去に複数の地域と話しをするなか、町の産業振興課・野澤さんの熱量は群を抜いていて。自分の町のことでなく、私たちの気持ちにも寄り添ってくださいました。二拠点しやすい地理的条件も決め手です」

初来訪から半年後の22年3月、サテライトオフィスが開設された。「日本は、アートに対する社会的な意義の理解不足や、他分野との連携がまだまだ途上。地域とアート業界双方の課題に着目し、アート×旅×地域」という独自の掛け合わせで「ARTabi2023 国際現代アートアワード」を企画しました。

町とのコラボは、ゲンジボタルが乱舞する6月中旬、例年10万人ほどの来場者で賑わう「辰野はたる祭り」にて。受賞作は辰野美術館に始まり、東京、香港と巡回展を予定している。この試みはアーティストの国内外進出の登竜門になり得ると同時に、辰野の魅力を外に発信することで町のアートタウン化を醸成する一助を担うことだろう。



「ARTabi」のロゴマークはグローバルな人材発掘と、辰野町を世界に向けたアートタウンへ発展させたいという思いが込められている

## 辰野町 学びと未来

### 学んだこと

#### 宿泊形態や価格幅を広げ より多様なニーズに対応

ワーケーションの際、ホストと密に対話を図りたい場合は同居型、集中したい場合は一棟貸しやホテルなど、ニーズやタイミングによってチョイスもまちまちだった。宿泊形態や価格の幅を広げることによって多様なニーズに対応できるだろう

### 未来へ向けて

#### 共創人口を増やすための 取り組みを強化

「たつの暮らしお試し滞在」事業は、町と民泊事業者が連携し、移住を検討しているゲストを泊めたり体験を提供するなど、田舎暮らし案内所としての役割を事業者に委託する事業。宿泊助成も含まれたこの事業は'23年4月から開始される

## 辰野町の SUPER HOST

### ゲストの声を地域に届けることが私たちホストの役割

古民家ゆいまーる 矢ヶ崎浩一郎さん、芳恵さん



'16年よりAirbnb登録し、現在スーパーホストとして活躍する「古民家ゆいまーる」矢ヶ崎さんご夫妻。旦那さまが受け継いだ築180年の風情ある古民家がリステイングだ。「辰野には、名所もしゃれた店もあまりなく、「映える」町ではないかもしれません。だからこそ、日常の延長線でちょっと一息つきたいというゲストが多くいらっしゃるのだと思います。彼らこそ、長く暮らしていると気づけなくなってしまう辰野の里の美しさや清らかさを、言葉を通じて再認識させてくれる人々。町外と触れ合う機会が少ない町の住民たちにその声を届け、辰野への愛着が育まれることに貢献していくこと。橋渡し役としての、私たちホストの大切な役割だと感じています」



## Airbnbホストこそ 地域内外をつなげる翻訳者

地理的優位性と自然環境の良さで、多動な時代に豊かな多拠点活動の可能性を持ち合わせている長野県辰野町。移住者受け入れにいち早く着目し、多彩なプレイヤーが集う夜明け前の町の入口に立っているのは、地域内外の人同士を然るべくつないでくれるAirbnbホストの姿だ。

**楽しみながらゲストと  
地域をマッチング**

かつて県東部を結ぶ交通要衝として栄えた辰野町。観光商材が乏しいため滞在客も少なく、中山間地が総面積の85%以上と工場の誘致もむずかしい。しかし視点を変えれば、首都と中京圏双方から2〜3時間の距離に位置し、東日本唯一の蛍の生息地を有する里もある。禍後の多動の時代に人々を惹きつけるココロのふるさとなり得よう。そんな可能性を見越してか、町は15年より積極的に移住者を受け入れるための施策を行ってきた。辰野に思いを寄せる人々が入り混じり、つながりを育みながら空き家改修を学べる「町が先駆け主催した」空き家DIYイベント」事業が功を奏し、空き家バンクの

成約率は約80%。年間80〜100名が移り住む。「大切にしているのは、町のありのままをお伝えすること。年代、地域内外、趣味志向など幅広い関わりシロをつくること。地域内外の間に立って双方の翻訳者になること。この3つすべてをフォローしているのが実はエアビーのホストさんなんです（産業振興課 野澤氏）」

辰野のハブとして、観光関係人口、移住者すべてのレイヤーで、町をより知りたいと望むゲストを迎え、楽しみながら地域とのマッチングを行ってみせる彼らの存在は、現在抱える課題をより良い方向に導く原動力になり得る。

「共に地域を創る共創人口を増やしていくことが、持続可能性を持った地域になるための鍵だと思えます（野澤氏）」

### 辰野町 産業振興課 野澤隆生氏

辰野町生まれ。大学卒業後、'01年に辰野町役場に入庁。各課を歴任後、現職。辰野青年会議所統括副理事長、日本青年会議所長野ブロック協議会委員長なども経験



これが21年にエアビーと提携を結んだ理由のひとつだ。以後、ふたつのプロジェクトを成功させた。ひとつは企業誘致を促すためのワーケーションプログラム「たつのワイクトリップ」。もうひとつは空き家の利活用と、町の総合案内人としてのホストを増やすことを目的にした「たつの宿泊施設開業支援」だ。後者は、行政がひと施設あたり30万円を支援して、半年で3施設が開業した。移住2世代が運営する宿は早くも同世代の交流拠点として新たな関係人口創出に一役買っている。今後は移住を支援するホストへ向けた補助金も導入予定。持続可能な地域に向けてさらなる厚みが増していきそうだ。

## 地方創生 with Airbnb

## 長野県 辰野町

課題の整理

- 町内人口が減少
- 地域プレイヤーが少ない
- 企業を誘致したい
- 観光商材と宿泊施設が少ない

課題解決に向かうには？

Airbnbのホストが町のコーディネーターとしてゲストと地域をつなげることで、関係人口や移住、企業誘致のきっかけを創出。新たなサービスやビジネスが生まれる潮流をつくる



「たつの宿泊施設開業支援」を利用して古民家シェア&ゲストハウス「おいと間」を開業した北笠さんご家族。築約120年の古民家にゲストを迎える

